

■9月2日

全日空、7月利用実績、国際線旅客数、前値比1.3%減

全日空が8月30日に発表した7月の利用実績で、国際線旅客数は前年比1.3%減の55万8022人となった。座席供給量は10.5%増としたが、これに対して旅客輸送量は10.0%増となり、利用率は0.4ポイント減の76.5%となった。

方面別は別添の通り

(トラベルビジョン)9/1

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58713> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58713>)

(日刊航空)9/2

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(ANAプレスリリース)9/1

http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/pdf/130830.pdf (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/pdf/130830.pdf)



方面別

ANA7.png

Portable Network イメージフォーマット [39.0 KB]

[ダウンロード](#)

日航、7月利用実績、国際線旅客数、3.7%増

日航が8月30日に発表した7月の利用実績で、国際線旅客数は前年比3.7%増の66万5919人となった。座席供給量は4.75%増としたが、これに対して旅客輸送量は6.3%増となり、利用率は1.2ポイント増の77.5%となった。

同月は、成田～ヘルシンキ線のデイリー化で供給も増えた。東南アジア線や欧州線は海外発が旺盛で好調に推移した。中国線は、北米への乗り継ぎ旅客は堅調だが、日本発の旅行需要が回復しておらず、全体で前年比約5%下回っているという。

方面別は別添の通り

(日刊航空)9/2

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(JALプレスリリース)9/2

http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxM01vbnRobHlfN4yOLnBkZg.pdf (->

http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxM01vbnRobHlfN4yOLnBkZg.pdf)



方面別

JAL7.png

Portable Network イメージフォーマット [69.7 KB]

[ダウンロード](#)

ベトジェットエア(LCC)、IPOを検討

(NNA ASIAによると)

格安航空のベトジェット航空が新規株式公開(IPO)を検討している。リユー・ドゥク・カイン社長が明らかにしたもので、3年半以内での実現を図るといふ。8月29日付ブルームバーグが報じた。

カイン社長によれば、ベトジェットは今期黒字を確保した上で事業拡大のための資金調達の手段としてIPOを検討している。同社は金額を明らかにしていないものの、昨年度は赤字だった。今年は7月時点で税引前利益1,200億ドン(570万米ドル、約5億6,000万円)を上げている。

IPOの時期についてカイン社長は、「1年半～3年半後」と明かした。また株式市場が比較的小さいベトナムではなく、「シンガポールや香港での上場も考えている」とのことだ。

ベトジェットは、2011年12月の運行開始以来、急成長を遂げており、8月時点で国内の航空旅客市場の20%を握っている。今年2月には初の国際線となるホーチミン～タイ・バンコク線も就航させている。カイン社長は、「最初の3年は赤字を覚悟していたが、予想を大きく上回る結果を上げている」と話す。

カイン社長は今後について、「現時点では国内線に重点を置いている。まだ成長余地が残されているからだ。国際線については国内線を補完するものと位置付けており、市場が良ければ拡張する方針だ」としている。しかし国内線優先方針の一方で、国際線についても拡張は続いている。今年第4四半期(10～12月)にハノイ市～韓国・ソウル区間を就航予定。カイン社長によれば、「来年中にも中国、インドネシア、台湾、香港、シンガポールにも飛ばす可能性がある」という。

(NNA ASIA)8/31

<http://news.nna.jp/free/news/20130903icn001A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130903icn001A.html>)